

令和元年度 宇都宮市立平石北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

～ 心ゆたかで かしく たくましく ～

（2）具体目標

- ・思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
- ・進んで学び自ら考える子（かしく）
- ・心と体をきたえる子（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」活気ある学校経営の推進 —

児童や教職員、保護者、地域住民のだれもが楽しく安心していける活気のある学校とするためには、一人一人が達成感や満足感、存在感、やりがいを感じる場所となることが大切であると考え。教育目標の達成や児童一人一人の資質・能力の向上を目指して、全ての児童が楽しく意欲をもって様々な教育活動に取り組み、夢や希望に向かって勇気をもってチャレンジし、児童同士、教職員同士、児童と教職員、学校と地域が互いに支え合えるよう、学習指導や児童指導、各種活動・行事、人的・物的教育環境づくりの工夫・改善に努めて教育活動や学校経営の充実を図り、活気あふれる地域の学校づくりを展開していく。

◇目指す学校の姿（本校の使命） 「活気あふれる地域の学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）目指す学校の姿（本校の使命）

「活気あふれる地域の学校」

（2）学校像と教職員像

- ①夢や意欲がもてる学校 ○②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
- ③互いの個性やチャレンジを認め合える学校 ④保護者・地域から信頼され魅力のある学校
- ⑤自己のキャリアを高めようとする意識の高い教職員 ⑥人間性・社会性豊かで信頼される教職員（学校スタッフとの連携）
- ⑦学校組織の一員として学びあい、協働し支え合う教職員

（3）「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全教職員による実践推進

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

～学習や学校行事等を通して、学校生活に意欲をもって取り組む子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教育横断的な視点で内容を組織的に配列する
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程を PDCA サイクルで実施改善する
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。（各種ボランティア・平北ファーム・高齢者との交流活動等）

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・教育活動の充実と精選、放課後研修の集中化を図り、勤務時間を意識した働き方の推進
- ・チーム力を生かした組織による業務の円滑化

【学 習 指 導】

- ・基礎基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業力の向上

【児 童 生 徒 指 導】

- ・望ましい生活習慣を身に付け、元気なあいさつ、正しい言葉づかいのできる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自己の健康・体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上	① 導入や発問、教材・教具（ICT含）等の工夫・改善を図るなど教材研究の充実を図り、児童の学習意欲がさらに高める。 ② 児童の学習意欲が向上し、授業のねらいを達成できるよう、言語活動を効果的に位置づけることで、児童の学習意欲を高めるようにする。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 91 児童 92 ・すべての対象で目標値を上回った。 ・ねらいの明確化と振り返りの習慣が意欲向上につながったと思われる。 【次年度の方針】 ・レンジャーシールや学習コーナー、「きいてきいてタイム」の活用を図り、児童の取組を認め、さらに児童の学習意欲を高める。 ・児童の学習意欲が向上し、授業のねらいを達成できるよう学習形態を工夫したり、言語活動を効果的に位置づけたりする。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」 各対象 肯定的回答85%以上	① 道徳科の授業において、考え議論する展開を図る。 ② なかよし班活動や学校行事等における異年齢児童との活動の機会の設定、地域の大人・高齢者との交流などにより、学年学級・学校を超えた人とのかわりを深める。 ③ 相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 84 地域住民 91 児童 85 ・保護者以外の対象で目標値を上回った。 ・保護者の数値は、児童の思いやりが見られる場面を目にすることが少ないためだと考えられる。 【次年度の方針】 ・道徳科の授業では、考え話し合う場を設ける。 ・なかよし班活動や縦割り清掃班活動を継続し、異年齢児童との活動の充実を図る。また、地域の大人・高齢者との交流を計画的に実施する。 ・取り組みを取り入れた道徳の授業や学級活動を公開授業に組み込む。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は、授業と生活のマナーを守って生活している」 各対象 肯定的回答85%以上	○① 「ひらきたよい子の一日」や生活目標の内容を見直し、児童の実態に合わせて柔軟に指導内容の重点化を図る。 ○② 児童の生活の中から積極的によい点を見つけ、帰りの会等で称賛する。 ③ 週の目標から、毎日の具体的な行動目標を想定し、帰りの会等で自己評価する。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 92 地域住民 100 児童 81 ・児童以外の対象で、目標値を上回った。 ・児童の数値は、学校生活の中で改善すべき生活態度を自覚しているからと思われる。 【次年度の方針】 ○・「ひらきたよい子の一日」を年度ごとに、児童の実態に合わせて見直していく。 ○・児童の生活の中から小さな頑張りでもよい点を見つけ、帰りの会等で積極的に認め合う。 ・帰りの会における生活目標の振り返りを継続して実施する。

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 各対象 肯定的回答 80%以上	○① 「さわやかあいさつ運動」の方法を工夫し、児童が率先して大きな声であいさつができるようにする。 ② 各種たよりや学級懇談会等の機会をとらえ、家庭でも大きな声であいさつができるように協力を依頼する。	【達成状況】 教職員 100 保護者 77 地域住民 100 児童 93 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。あいさつ運動が定着してきた成果である。 【次年度の方針】 ○・今年度同様、「さわやかあいさつ運動」の方法を工夫し、クラス単位でのあいさつ運動を行う。学校園あいさつ運動の取組も継続して実施していく。 ・各種たよりや学級懇談会等の機会をとらえ、家庭でも大きな声であいさつができるように協力を依頼する。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答 80%以上	① 持久走記録会、なわとび検定等の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努める。 ② 「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の努力や良さを認め励ます教育を推進する。	【達成状況】 教職員 81 保護者 75 児童 84 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・持久走記録会やなわとび検定では、カードの活用を図り、達成感を味わう機会を作る。 ・レンジャーシールを活用し、児童の取組を認めていく。また、レンジャーシールをもとに、宮っ子心の教育表彰に該当する児童を考えていく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「健康や安全に気を付けて生活している」 各対象 肯定的回答 80%以上	① 健康の保持増進やバランスのとれた食事、安全を意識した生活を送ることができるよう、児童に具体的な行動様式等を示しながら、毎日の指導に取り組む。 ② 定期健康診断や避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施するなどして、各健診・検査や体験活動を通した健康安全教育を推進する。 ③ 各種たよりや学級懇談会 HP 等を活用して保護者への啓発を図るとともに、家庭と連携・協力して指導を行う。	【達成状況】 教職員 100 保護者 91 地域住民 100 児童 91 ・全ての対象で目標値が上回った。 ・各教育活動の状況の啓発を図ってきたためと思われる。 【次年度の方針】 ・児童が健康・食育・安全を意識しながら生活できるよう場面に応じた具体的な指導を継続して実施する。 ・定期健康診断や各行事等を計画的に実施し、体験活動を通した健康・食育・安全教育に取り組む。 ・随時、各種便りや HP などで情報の発信・提供を行うなど、保護者への啓発活動を継続する。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「夢や目標をもって社会に貢献できるよう努力している」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答 80%以上	① 地域協議会と連携した生き方講演会「夢にむかって」やキャリア教育などにより、夢や目標をもち、努力し、主体的に活動しようとする大切さや喜びを実感させる教育活動に取り組む。 ② 自分の特性の理解やよりよい人間関係づくりを通して、主体的に働こうとする態度を育むために、各教科や特別活動、道徳等との関連を図った展開をする。	【達成状況】 教職員 81 保護者 75 児童 84 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 ・生き方講演会では、夢に向かう人々の思いについて話を聞くことができた。 【次年度の方針】 ・キャリア教育の充実を図るために、各教科等との関連について自校化を図り、年計に位置付け実施していく。 ・各種便り、学校公開等の実施により、教育活動を積極的に発信する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、英語を使ったコミュニケーションをしている。」 児童、教職員対象 肯定的回答率 80%以上	① ALTと連携し、学年の実態に応じた外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 ② ALTとの給食や昼休みのALTによる読み聞かせなどの交流を通して、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 教職員 94 児童 92 - すべての対象で目標値を上回った。 - ALTの積極的関りが良かったと思われる。 【次年度の方針】 - ALTと連携し、学年の実態に応じた外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 - ALTとの給食や昼休みのALTによる読み聞かせ・ゲーム、他授業などの交流を通して、学校生活で英語を使う機会を設ける。 - ALTとの触れ合いについては教職員や児童からもアイデアを募る。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「児童は、宇都宮の良さを知っている」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間において、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。 ② 地域の情報を収集し、学校だよりに掲載することにより、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。	【達成状況】 教職員 69 保護者 47 児童 69 - すべての対象で目標値を下回った。 - 来年度から実施のため、全体の意識が低かった。 【次年度の方針】 - 生活科や総合的な学習の時間の年計において自校化を図り、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。 - 地域の情報を収集し、H.Pや各種おたよりに掲載することにより、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「パソコンや図書等を学習に活用している」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率 80%以上	① 情報教育担当や司書、学級担任が連携し、パソコンや図書室等を活用した調べ学習や発展学習の充実を図る。 ② 図書だよりによる啓発や読書週間における家庭と連携した取組など、学校図書館を核とした読書活動を推進する。	【達成状況】 教職員 100 保護者 63 児童 79 【次年度の方針】 - 情報教育担当や司書、学級担任が連携し、パソコンや図書室等を活用した調べ学習や発展学習の内容を年計に自校化し、指導の充実を図る。 - 各教科において図書やICTを活用する学習活動の展開を工夫したり、意図的に場面を設定したりする。 - 単元に関する図書やICTを使った学習を公開授業で取り入れるとともに、H.Pや各種おたよりによる発信の仕方を工夫する。

目 指 す 学 校 の	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 各対象 肯定的回答85%以上	① 生活科や3年、総合的な学習での「高砂荘」訪問等を通して、高齢者との交流を深める。 ② 「感謝の会」や高齢者との交流学習を通して、高齢者に感謝やいたわりの気持ちを実感させる教育活動に取り組む。	B 【達成状況】 教職員 100 保護者 84 地域住民 92 児童 85 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・3年の高砂荘訪問、1・2年のむかし遊び交流を継続して実施する。 ・「きいてきいてタイム」での高齢者ボランティア、花壇ボランティアと作業を一緒に行うなど、触れ合う場面を増やす。 ・「感謝の会」の準備・本番を通して、感謝やいたわりの気持ちを実感できるようにする。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 児童、教職員対象 肯定的回答率 80%以上	① 学校農園活動「平北ファーム」など、自然の大切さを実感させる教育活動に取り組む。 ② 親子奉仕作業やごみの分別・リサイクル活動、節電、節水など、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。 ③ 様々な状況を想定した避難訓練を年3回計画的に実施し、命を守る防災意識を高める。	B 【達成状況】 教職員 63 児童 83 ・児童のみ目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・学校農園活動や親子ふれあい作業等を通して、「持続可能な社会」について、考える機会をもつ。 ・平北ファーム関連の食農の年計の見通しを立てる。 ・避難訓練のマニュアルを作成する。 ・教職員の校内研修を実施する。
	B1 児童は正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 各対象 肯定的回答80%以上	① 普段から正しい言葉遣いができるように、全教職員で指導内容の共通理解を図り、指導を徹底する。 ② 各種たよりや学級懇談会等の機会をとらえ、家庭でも正しい言葉遣いができるように協力を依頼する。 ③ 児童には、口調に気を付けて優しい言葉で話すように指導する。	B 【達成状況】 教職員 94 保護者 65 地域住民 91 児童 85 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 ・保護者の数値は、児童が正しくない言葉遣いをしている意識が高いと考えられる。 【次年度の方針】 ・生活目標に「正しい言葉遣い」を位置づける。 ・道徳や学級活動で意図的に取り上げる。 ・各種たよりや学級懇談会等の機会をとらえ、家庭でも言葉遣いについて考える機会をもってもらようようにする。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答率 80%以上	① 校内支援委員会やケース会議、児童に関する情報交換会を通し、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図る。 ② 家庭訪問や個人懇談、保護者会などの中で児童の情報を把握する機会をもつ。また、適宜適切で迅速な保護者対応に努める。	B 【達成状況】 教職員 100 ・目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・校内支援委員会やケース会議、児童に関する情報交換会を計画的・継続的に実施し、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図る。また記録を蓄積していく。 ・家庭訪問や個人懇談、保護者会などの中で児童の情報を把握する機会をもつ。また、適宜適切で迅速な保護者対応に努める。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 各対象 肯定的回答80%以上	① 各種たよりやHP、学級懇談会や地域協議会等の機会をとらえ、学校を取組を説明するとともに、計画的に取組を発信する。 ② 日常の指導に加え、通常の授業や公開日などにいじめ防止に関した道徳や学級活動の授業を実施する。 ③ いじめアンケートを確実にを行い、いじめの早期発見、早期対応、早期解決に努める。	【達成状況】 教職員 100 保護者 72 地域住民 100 児童 93 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 ・保護者の数値は、いじめ対策の認知が低いと思われる。 【次年度の方針】 ・各種たよりや学級懇談会等の機会をとらえ、児童の取組を発信していく。 ・9月いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を継続して実施する。 ・いじめゼロに関してのアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。 ・児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「教職員は、一人一人を大切に、児童がともに認め合い、励まし合う学級経営を行っている」 児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上	① 職員会議の折に学級の課題を取り上げ職員の共通理解を図るとともに、適宜いじめ不登校対策委員会を開く。 ② 帰りの会で「友達のよいところをみつけたよ」の発表を行うなど、児童の良さや努力などを励ます教育を推進する。 ③ SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、民生委員など外部組織を活用した支援策を検討する。	【達成状況】 教職員 100 保護者 89 児童 93 ・すべての対象で、目標値を上回った。 ・拡大ケース会議の実施や担任による保護者対応の共通認識が良かったためと思われる。 【次年度の方針】 ・今後も、児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会（不登校対策含）、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を図り、対応策を検討していく。 ・SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答率80%以上	① 関連機関や民生委員と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握する。 ② 校内支援委員会及び児童に関する情報交換会を通し、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図る。	【達成状況】 教職員 100 【次年度の方針】 ・関連機関と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握していく。 ・校内支援委員会等において、特別な支援を必要とする児童についての共通理解を図り、対応策を検討していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 各対象 肯定的回答90%以上	○①教育活動全般を通して、一人一人が主役となれるような活動を意図的に設定するとともに、児童が自分の考えを具体化できるように活動の時間を確保し、自己有用感を感じられるようにする。 ② 「みんなで笑顔」を本年度のテーマに掲げ、6年生中心に結成されている「平北レンジャー」を児童会の中心に位置づけ、様々な活動の活性化を図る。 ③ 保護者や地域には、学校で生き生きと活動する児童の様子を各種便りやHP等で積極的に発信する。	（達成状況） 教職員 100 保護者 87 地域住民 100 児童 86 ・保護者と児童以外の対象で、目標値を上回った。 ・設問が漠然としているため、諸教育活動のめあてを明確化し、伝えていく必要がある。 【次年度の方針】 ・児童会と平北レンジャーが連携し、計画的に活動を実施する。 ・学校だよりや学年だより、H.P.等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材研究を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 児童・教職員・保護者対象 肯定的回答80%以上	① 学力調査等の結果を生かし、算数における習熟度別学習やT.Tの実施、全学級T・Tによる朝の学習の実施など、個に応じた指導を工夫・改善することで、基礎基本の定着を図る。 ② 校内研修サポート事業や一人1授業を通して、「分かった！・できた！・楽しい！」授業を実践するための指導の工夫・改善に努める。 ○③家庭学習について「家庭学習だより」や「家庭学習の手引き」などを活用して共通理解を図り、地域全体としての学力向上を目指す。	【達成状況】 教職員 100 保護者 85 児童 95 ・すべての対象で、目標値を上回った。 ・担任の授業の「ねらいの明確化・整理された板書・振り返りの徹底」の取り組みが児童や保護者に浸透してきたと思われる。 【次年度の方針】 ・学力調査等の結果を基に、学校課題と関連する課題を設定し学校全体で課題解決に向けて取り組む。「課題の焦点化」と「検証の実施」を行い、検証改善サイクルの確実な運用を図る。 ・算数における習熟度別学習やT.Tの実施、全学級T・Tによる朝の学習の実施など、個に応じた指導を工夫・改善することで、基礎基本の定着を図る。 ○・家庭学習について「家庭学習だより」や「家庭学習の手引き」などを活用したり地域学校園内で校内研修について共通理解を図ったりして、地域全体としての学力向上を目指す。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員チームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員対象 肯定的回答90%以上	① 教員が担うべき業務、多様な専門性を有する学校スタッフに委任できる業務を明確にし、授業に関わるなど学校スタッフの積極的な活用を図る。 ② PDCAサイクルによる学校行事の精選やバランスのとれた役割分担等を見直し、同僚性を発揮して取り組むようにする。 ③ お知らせコーナーの活用や打合わせ時間の確保など、共通理解を図ることができる環境を整える。	【達成状況】 教職員 100 ・対象で目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・PDCAサイクルによる学校行事の精選を図り、校務分掌の見直しを図る。 ・教職員一人一人の専門性を活かし、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「全教職員残業時間の平均 45 時間未満」 教職員対象 90%以上	① 月1回金曜日6校時のカットや月曜日に会議を開催しない、PCを活用して会議の効率化を図るなどの取り組みにより、放課後の教材研究の時間を確保する。 ② 学校行事の反省等、教育課程のふりかえりや意見を取りまとめ、職員会議で検討するなど、次年度以降の効率化につながる改善に取り組む。 ③ 学校徴収金システム、インターネットバンキング等を活用して、出納業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員 100 ・児童と向き合う時間の確保には業務改善が不可欠という意識が高まったと思われる。 【次年度の方針】 ・業務改善を校務分掌に位置付け、業務の効率化に取り組んでいく。 ・月1回金曜日の6校時カットによる研修やPCを活用した会議の効率化を図る。 ・行事等の取組の反省を検証し、効率化につながる改善を図る。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した取組を行っている」 各対象 肯定的回答80%以上	○① 小中一貫教育・地域学校園における、各部・分科会での同一歩調の取組を各種便り等で積極的に発信する。 ○② 研修サポート事業による授業を各校相互に見学し、小中連携だけでなく小小連携を図り、学校園として授業力の向上に取り組む。 ○③ 鬼怒地域学校園あいさつ運動等の行事を通し、児童・生徒交流を積極的に推進する。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 85 地域住民 91 児童 84 - すべての対象で目標値を上回った。 - 各部・分科会ごとに、積極的な取り組みができた。 【次年度の方針】 ○・地域学校園あいさつ運動等の行事を通して、児童・生徒交流を積極的に推進する。 ○・小中一貫の取り組みがわかるように、各種便りや学校ホームページ、校内掲示等を工夫し、学校の取組や児童の活躍の様子を積極的に発信する。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 各対象 肯定的回答80%以上	① 地域協議会コーディネーターと連携し、街の先生および学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ② 地域協議会を核とした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、学校運営の充実を図る。 ③ 児童が活動の成果を発表する機会を充実させるとともに、地域と関わりのある行事の振り返りの場を設け、活動の様子や振り返りカードを校内に掲示するなどして、満足感や成就感を高める。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 82 地域住民 100 児童 85 - すべての対象で目標値を上回った。 - 地域と連携した教育活動が展開されている。 【次年度の方針】 ・地域コーディネーターの役割を明確化し連携を強化することで、ボランティア活用の活性化を図る。 ・街の先生及び学校支援ボランティアの活用を年計に位置づける。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 各対象 肯定的回答90%以上	① 地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。 ② 地域の人的・物的資源を有効に活用した教育活動を推進し、より効果的な方法で広く情報を発信していく。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 82 地域住民 100 児童 85 - 保護者と児童以外の対象で、目標値を上回った。 - 家庭や地域等との連携・協力により、特色ある学校づくりを推進することができた。 【次年度の方針】 ・地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。各教科や総合的な学習の時間の地域教材の発掘を積極的に推進する。 ・地域協議会を窓口とした学校支援ボランティアの活用を推進する。 ・各種便り、学校公開等の実施により、教育活動を積極的に発信する。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用者の安全に配慮した環境づくりに努めている」 教職員、保護者、地域対象 肯定的回答80%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、児童や利用者が安全に活用できる環境づくりに取り組む。 ② 保護者や学校施設利用者へ来校時の注意点の周知やAEDの活用、災害時避難方法、各講習会の案内など、危機対応に関する情報を提供する。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 79 地域住民 100 ・保護者以外の対象で目標値を上回った。 ・保護者の数値は、毎月の安全点検や危機対応などの取り組みについての認知が不十分と思われる。 【次年度の方針】 ・学校の取り組みなどを各種たよりやホームページ等により、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施により、危険箇所の周知を図り修繕箇所への迅速な対応に取り組む。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者対象 肯定的回答80%以上	① 学習に必要なICT機器や図書等が十分に活用していけるように設置する。 ② 授業等で教職員が十分活用できるよう校内研修等を計画的に行い周知を図る。 ③ 研修サポート等を活用しよりよい活用法を伝え合う。	B	【達成状況】 教職員 100 保護者 63 児童 79 ・教職員のみ目標値を上回った。 ・保護者と児童の数値は、ICT機器や図書の整備、活用についての発信が弱いためだと考えられる。 【次年度の方針】 ・各学級の古い図書は廃棄し、図書の充実を図る。 ・ICT機器や図書を活用した授業に関しての研修の場を設ける。 ・授業参観等において、ICT機器や図書を活用した授業を実践する。
B2 学校マネジメントシステムを生かし、教育活動の継続的な改善に努めている。 【数値指標】 「保護者や地域住民の建設的な意見を学級経営や授業改善に生かそうとしている」 教職員対象 肯定的回答90%以上	① 教職員中間期評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努める。 ② 校内評価委員会や「平北プロジェクト」等を活用し、教育活動の改善に努める。	B	【達成状況】 教職員 100 ・対象で目標値を上回った。 ・平北プロジェクトの活動を通して、教育活動のPDCAサイクルを意識して取り組んだ。 ・2か月ごとの教育課程評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努めた。 【次年度の方針】 ・校内評価委員会やプロジェクトチーム等を活用し、教育活動の改善に努める。

本校の特色・課題等	B3 いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心や読み取る力の育成に努めている。 【数値指標】 「児童は、進んで読書に取り組んでいる」 教職員、保護者、児童対象 肯定的回答 80%以上	① 朝の読書の実施（月・水・金）やボランティアによる読み聞かせ、図書委員会による取組等により、読書への関心を高める。 ② 学校図書館司書と連携・協力して読書活動や学習活動への支援の工夫・改善を図る。 ③ 家庭での読書量が増加するよう、家読の日を設定し、家庭と連携・協力した取組を計画・実践する。 ④ 学年だよりを活用して、年2回読書に関わる取組について、保護者への啓発を図る。	B （達成状況） 教職員 100 保護者 60 児童 79 ・教職員のみ目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・朝の読書の実施（月・金）やボランティアによる読み聞かせ、図書委員会による取組等により、読書への関心を高める。 ・家庭での読書量が増えるよう、家読を継続して実施していく。 ・学校図書館司書と連携・協力して読書活動や学習活動への支援の工夫・改善を図り、H.Pや各種おたよりで保護者への啓発を図る。
------------------	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・アンケートの結果から、本校の教育活動は概ね良好に進められていると考えられる。 【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】 ・学習指導や健康に関する項目の多くで数値目標を上回った。しかし、ICT機器や図書の活用においては、保護者の数値が低い。図書やICTを活用する学習展開の工夫やプログラミング教育の推進及び授業公開や各種便りによる発信に取り組んでいく必要がある。 ・新たに設定されたA9「宇都宮の良さ」については、各対象において目標を下回った。令和2年度より宇都宮学がはじまることから、地域資源・人材の活用の充実を図るなど地域や宇都宮市を教材とした学習を展開していく必要がある。 ○「あいさつや正しい言葉遣い」の項目への保護者評価が目標値を下回った。あいさつ運動が定着してきた成果であり、保護者の関心が高まってきた表れでもあると思われるが、保護者や地域と連携して取組を充実させていく必要がある。 ・「夢や目標に向かって努力すること」に関する項目の保護者の数値が低いことから、児童の取組を評価する機会の充実やキャリア教育の推進を図り、発信していく必要がある。 【目指す学校の姿（評価項目：A13～25）】 ・ほとんどの項目で目標値を上回ったが、いじめへの取組において、保護者の数値が下回った。取組に対しての認知が低いことが原因と考えられることから、各取組の充実と併せ、保護者・地域への発信を充実させていく必要がある。 ・「地域の教育力を活かした特色ある教育活動」の展開については、目標値は達成しているが、地域やPTAとの連携をさらに深め、地域の人的・物的資源のさらなる有効活用に努めていく必要がある。 ・「業務の効率化」については、目標値を達成しているが、児童と向き合う時間のさらなる確保に向け、教職員の意識向上とともに、業務の効率化に取り組んでいく必要がある。 【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】 ・B3「いろいろな分野の本を読み、読書への関心や読み取る力を育成する」への保護者評価が60%と低かった。朝の読書や読み聞かせ、家読への取組を継続するとともに、学校図書館司書と連携・協力して工夫改善を図る必要がある。

7 学校関係者評価

【持続可能な社会】

- ・評価に教員と児童に大きな差がある。教育現場に浸透しやすい評価項目とすべきではないか。

【いじめ・不登校対策】

- ・気付きを共有し、その結果づくりが必要と思われる。
- ・思いやり、人々に対する感謝の心をどう育成するかが重要である。
- ・不登校気味の児童に教職員が連携し、一緒に登校するなど努力しているそうで嬉しく思う。

【高齢者に対する感謝・いたわり】

- ・花壇ボランティアの年2回の活動が、子供たちにどう伝わっているのか。感謝する気持ちは実感できているのか。

【ICT 活用】

- ・児童の学習にどのように導入するのか。マニュアルや指導法など、教員がベクトル（方向性）を合わせやすいようにしたかどうか。
- ・プログラミング教育が本格導入となる。教員のレベル向上の訓練など、専門的な（学習）が必要と考える。

【健康や安全に気を付けて生活しているか】

- ・登下校時にふざけてしまう児童が時々いる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

- ・明るいあいさつや正しい言葉遣い、きまりやマナーを守ることができるよう、家庭・地域と連携しながら、日頃から継続的に指導していく。
- ・自ら進んで学習に取り組ませるとともに、言語活動の充実と自分の考えを伝え合う活動を充実し、基礎基本の定着と「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて取り組む。
- ・ICT 機器や図書等の活用等を計画的・効果的に授業に取り入れるなど授業改善を図り、分かる授業を一層展開することにより、学力向上を図る。

【目指す学校の姿】

- ・家庭や地域と連携・協力しながら、特色ある学校づくりをさらに推進する
- ・いじめゼロや不登校を生まない学級経営を目指した取り組みを継続して行うとともに、学校での取組の様子を家庭や地域へ積極的に発信して啓発を図っていく。

【本校の特色・課題等】

- ・本校の課題である、いろいろな分野の本を読み、読書への関心や読み取る力の育成については、朝の読書やボランティアによる読み聞かせ、家読等の活動に継続して取組むとともに、司書と連携・協力して工夫改善を図る。